

平成22年度第5回理事会議事概要

日 時： 平成22年9月3日(金) 15:30～16:10

場 所： 森林総合研究所 特別会議室

出席者：	理事長	鈴木 和 夫
	理事(企画・総務担当)	福 田 隆 政
	理事(研究担当)	大河内 勇
	理事(育種事業・森林バイオ担当)	平 野 秀 樹
	理事(業務承継円滑化・適正化担当)	町 田 治 之
	監事	林 良 興
	監事	龍 久仁人
	監事	滑志田 隆
	総括審議役	志 田 孝 一
	審議役	富 永 茂
	企画部長	平 川 泰 彦
	総務部長	安 樂 勝 彦

1. 開会

2. 報告

本日は、議案は無く、報告3件となっている。

(報告1) 第40回農林水産省独立行政法人評価委員会林野分科会概要報告について

(平川企画部長) < 資料 1 - 1 を説明 >

8 月 2 4 日に林野分科会が開かれた。評価結果の総括だが、着実に成果を上げている、研究に関してはコーディネート強化すること、業務運営に関しては内部統制の取り組みを強化することを指摘されている。政策評価・独立行政法人評価委員会関係については、着実にやっていると評価を頂いた。

大項目の評価については、計算式があり今回は b 評価が 2 つだけだったが、イイ b の生物関係の研究、財産の 3 で財務内容の部分だが平成 2 0 年度の財務諸表に誤謬が見つかり今回は b 評価とするとされた。b 評価が 2 つあるが総合評価に影響はなく A 評価となった。

(鈴木理事長)

本件の報告については理事会として了承された。

本件の資料については、林野庁の公表状況を確認した後に公開するものとする。

(報告 2) 平成 2 3 年度概算要求・要望額について

(安樂総務部長) < 資料 2 - 1 を説明 >

平成 2 3 年度概算要求の状況であるが、森林総合研究所の業務運営に必要な経費である研究・育種勘定運営費交付金は 9 , 9 2 7 , 4 9 7 千円(対平成 2 2 年度 9 , 9 7 2 , 9 3 0 千円比 9 9 . 5 4 %)となっている。また、施設整備費補助金は 2 3 2 , 1 0 4 千円(対平成 2 2 年度 2 5 7 , 8 9 3 千円比 9 0 . 0 0 %)となっており、事業内容は研究本館北棟設備改修(本所)及び研究本館他空調設備改修(関西支所)並びに F 2 世代開発推進交雑温室改修(林木育種センター)である。

(福田理事)

施設については第 3 期中期計画 5 年間の最初の年になる可能性がある。ベースラインになる可能性があるため、努力したが一律 1 割カットされたので努力は実らなかった。特高受変電施設は 1 6 億円かかり、2 年以内に行う必要があるので試験地と実験林の整備と一緒に持ち出せる方向で検討している。

概算要求・要望の内訳は無く、総額しかないがよろしく願います。

(鈴木理事長)

本件の報告については理事会として了承された。

(報告 3) 平成 2 2 年度会計監査人の選任について

(安樂総務部長) < 資料 3 - 1 を説明 >

平成 2 2 年度会計監査人候補者の農林水産大臣への選任請求については、第 3 回理事会において承認を得、手続きを進めてきたが、先般、大臣から選任請求どおり新日本有限責任監査法人を選任したとの通知があったところである。これを受け、9 月上旬を目途に監査契約締結を行うこととしたい。なお、契約期間は契約日から平成 2 2 年度財務諸表が大臣に承認されるまでの間となる。

(福田理事)

独法評価の中でも内部統制のことは言われているが、昨年の会計監査人から口頭で内部統制と情報セキュリティが弱いのではないかと指摘されている。内部統制については規程を設けて対応するよう進めている。

(理事長)

情報セキュリティは、森林農地整備センターも入るのか。

(福田理事)

統一で行う。情報セキュリティポリシーは、国民の個人情報を持っているところがきちんとセキュリティ対策を行うことになるので、個人との契約関係がある森林農地整備センターが大変かと思われる。森林農地整備センターは前から取り組んでいたのが第4版で統一、本所については第1版で行わなかったのが何も規定が無かったのできちんと対応する。

(鈴木理事長)

本件の報告については理事会として了承された。

(福田理事)

他に意見等はないか。

(滑志田監事)

業務の実績に関する評価結果でアウ a の「林業の活力」については厳しい評価をする委員もいるが、我々の自己評価と外部からの評価が何故食い違うのか方向性が見える所まで議論した方が良いのではないか。

(理事長)

研究戦略会議で議論を行っている。最初に b 評価だった時に研究成果の社会還元ないし今のニーズにどう答えているかそこが弱い、ということで、産学官連携推進を強力に推し進めて研究成果が見えるようにしている。一定のものを出してもサイエンスの方に偏ってしまうので、研究成果が見えるようにする努力が必要ではないか。そのようなところを積極的にカバーしていこうと昨年から努力するようにした。

今回の平成22年度第6回理事会は、10月8日(金)開催予定となった。

3 . 閉会